

人権保育プロジェクト活動を通して

1年間の人権保育プロジェクト活動を通して、安心感を基盤にしなが、日々の保育の中で何が自尊感情とつながる取組なのかを意識して子どもたちと接することで、保育者もともに自尊感情を高め合うことができることに気づきました。日々の保育の中にも保育者の意識や言葉がけ1つで自尊感情を高めるチャンスがあります。このリーフレットをきっかけに、日々を振り返り、「自尊感情を育むには」何ができるのかを再確認していきたいと思ひます。

人権保育プロジェクトメンバー

アンケートから 頂いたご意見

2012年度のリーフレットに対して、アンケートを通じて様々なご意見を頂きました。皆様のご意見をもとに、より分かりやすく、より活用しやすいリーフレット作りを目指していきます。

今までのリーフレットを
それぞれが開いてあるので、
必要な時に見て活用している。

園内でも
エピソード検討をしてきたが、
本音で語り合うことの難しさを感じた。
違いを認めたり、受け止めてもらえる関係、
本音でぶつかり合える関係を
大切にしていきたい。

園内研修の場で意見を
出した。自分の意見を出し、
相手の意見や感想を聞き、
また自分に返して考える
機会を持つようにしました。

リーフレットを読み、
意見を園内研修会で
発表した。

そんな職員関係を築いていきたいと感じた。
子どもにとっての本当の居場所作りにつながる
ということ、自分の保育の中でも
大事にしていきたい。



自尊感情の高め合い

昨年度まで取り組んできた多文化共生というテーマに一区切りをつけ、今年度は新しいテーマに取り組ましました。新しいテーマを決めるにあたっては、プロジェクトのメンバーで、現場で今何が一番課題となっているのかということ話し合う中で子どもの自尊感情というテーマが見いだされました。日頃、現場で子どもたちと接する中で、子どもの自尊感情がうまく育っていないと感じられる場面について語り合いました。ところが、議論はいつしか、自分たち保育者の自尊感情についてになっていました。保護者の自尊感情が、子どもの自尊感情に影響を与えるのと同様に、保育者の自尊感情も子どもの自尊感情に影響を与えます。

では、どうすれば保育者の自尊感情を高めることができるのでしょうか。保育者同士、専門性を高め合う中で同時に、保育者としての自尊感情が高め合われていくのは言うまでもありません。それ以上に素敵なのは、子どもの自尊感情を高め、子どもの輝く瞳の中に自らの保育者としての自尊感情を見いだした時なのではないでしょうか。

自尊感情は、高まるものでも、高めるものでもなく、互いに高め合うものなのかもしれません。子どもと保護者、子どもと保育者、子ども同士、保護者同士、保育者同士、そして、校種間で、お互いの自尊感情を高め合うつながりを作っていきたいものです。

鈴鹿短期大学 長澤 貴

このリーフレットのバックナンバーは、公益社団法人 三重県人権教育研究協議会のホームページからダウンロードできます。

<http://www2.ocn.ne.jp/~sandokyo/>

- ▶ 2006年度 / 「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(中間報告)」
- ▶ 2007年度 / 「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(最終報告)」
- ▶ 2008年度 / 「いじめ対応の根っこにあるものは？」
- ▶ 2009年度 / 「多文化共生から人権保育を考える①」
- ▶ 2010年度 / 「多文化共生から人権保育を考える②」
- ▶ 2011年度 / 「多文化共生から人権保育を考える③」
- ▶ 2012年度 / 「多文化共生から人権保育を考える④」

三重県人権保育推進支援事業

2014年3月 発行

三重県健康福祉部
子ども・家庭局 子育て支援課



再生紙を使用しています。植物油インキを使用しています。

自尊感情を育むには〰〰

～ 子どもたちの姿から ～

あなたは自分が好きですか？短所、長所も含め『自分が好き』と思える心が自尊感情です。

地域、職場や学校、家族の中で『どうせ…ぼくなんて』とあきらめたり、自分を素直に表現できなかったりすることが気になる姿として聞かれます。

また、国際的にみて、日本の子どもたちは『自信を失っている』『自分らしさを発揮できていない』という結果が出ています。みなさんのまわりではどうですか？

・自尊感情を高めるために

・保育者・教職員のかかわり

・連携

今年度はこの3つのキーワードを軸にして施設、学校の見学、職員のお話から考えてみました。

津市立敬和小学校



自分と自分の暮らしについて見つめる『綴(つづ)り方』に取り組むことで、自分や家族、周りの人を大切にする心を育んでいる。

三重県立桑名北高等学校



地域の保育所の子どもと、1年間1対1でペアになり交流する「コミュニケーション授業」。自分が必要とされることで、自己肯定感を育むことにつながる。

伊賀市立柘植小学校



子どもが安心して自分の意見を言えるような授業づくりをすることで、『コミュニケーション能力の育成』や『基礎学力の定着』につなげている。

大阪聖和保育園



民族保育を実施することで自分、人を大切にし、豊かな仲間づくりを目指している。朝鮮・韓国にルーツを持つ保護者が多い。

四日市保々中学校区



「今」取り組んでいることが未来の自分につなげられる子に育てほしいと願ひ、保幼小中高、家庭、地域が連携して『保々地区18年間(社会へ)の育ちのプログラム』に取り組んでいる。6つの視点【だいすき】【つながる】【じっくり】【やってみる】【すこやか】【まなぶ】を位置づけ、それぞれの成長段階でどんな力をつけたいのかを明確にし、日々の保育、教育に生かしている。

自尊心とは...

欠点や短所を含めてありのままの自分を肯定的に認め、自分を好きになり、「自分はかけがえのない存在だ」と思える気持ちのことです。これは、人が生きていく上でとても大事な感情です。

保育者・教職員のかかわり

子どもたちを取り巻く環境は様々です。子どもたちの安心できる居場所を作ることで、自分のことが好きになり、自尊心が高まっていくのではないのでしょうか。そのためには、子どもの生活背景を知り、ありのままの姿を認め、保育者・教職員の丁寧なかかわりが必要となってくるのです。

居場所

- ・認められる場
- ・褒められる場
- ・安心できる場

- ・否定的な声掛け
- ・決めつけ
- ・上から目線

などのかかわり方は、子どもたちを不安にさせていませんか？



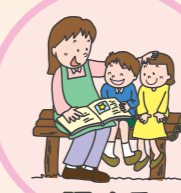
うなずく



肯定的な声掛け



同じ目線



認める



失敗してもよいというメッセージ



話を丁寧に聴く



話しやすいクラスの雰囲気を作る

子どもの姿と生活背景を知る
(電話連絡・家庭訪問・連携・子どもの言葉)

連携・協働

園・所・学校

子どもたちの成長をつなげましょう

保育者・教職員が園校種を越えて、同じ視点で保育・教育を考えつなげていく“とぎれのない支援”は、子どもたちの安心感につながります。

家庭

家庭とともに育みましょう

子育てに悩んでいる保護者は少なくありません。そういった保護者の悩みを一緒に考えながら子どもとかわることで、保護者も子どもも自尊心が高まっていくのではないのでしょうか。

地域

社会全体で支え合きましょう

地域の人に見守られ、愛されることで、自分が大切な存在と実感することができるのではないのでしょうか。子どもたちが地域で安心して生活していくには、地域の人とのかかわりが大切です。



安心感

人

言葉

居場所

保幼小中で互いに行き来しあって異年齢の交流を大切にしている。保幼と小1、小6と中学校が授業や行事を通して交流することで、次年度も継続し、安心して過ごせる取組を行っている。(保々中学校区)

高校生が保育所の子どもたちとかかわることで、頼りにされていると感じる。(桑名北高校)

- ・自分のことを受け止めてくれる存在
- ・ありのままの自分を認めてくれる存在
- ・自分のことを大好きと思える
- ・頼りにされている喜び、自信、成就感



日常的に日本や朝鮮・韓国の歌や手あそびをする“民族保育”を実施しており、文化をツールとしながら、お互いのことを認め合う素地を創っています。その中で「自分が大切」「あなたが大切」と感じながら「仲間として育つ」ことを目標としています。幼い頃の生活と思い出は、自尊心を育む基礎となることを信じる保育を実践しています。(聖和保育園)

コミュニケーション力を育む取り組みとして、自分の持っている様々な部分を出できるように“つげ1グランプリ”（お笑い）を行っている。(柘植小学校)

自分の生い立ちや暮らしを綴ったり、語ったり、思いを返しあったりする中で、周りから大切にされていると感じたり、周りから大切にされていると感じる。(敬和小学校)

- ・“みんな違ってみんないい”
- ・ありのままの自分を出せる場やその仲間関係のある場
- ・失敗してもやり直せる場
- ・一人じゃないと思える心地よさ

自尊心を高めるには...

「人」「言葉」「居場所」のそれぞれに安心感が感じられるかかわりをしていくことが大切だと思います。

- ・あなたのことを大事というメッセージ
- ・心地よい言葉のシャワー
- ・傾聴、共感
- ・うなずき
- ・肯定的な言葉かけ

自尊心が低くなる時は...

- ・認める言葉がけではなく、自信をなくすような言葉をかける。
- ・他者と比較して悪いと思った面だけを指摘する。
- ・大人が手を出しすぎて子どもが自分の力でやりきったと思えない。(達成感が得られない)
- ・人の役に立ったと思える経験が少ない。
- ・無視される。反応がない。

↓
自分のマイナス面を強く意識するようになり、自信が持てなくなる。

